

標 題	西いわみ地域の畜産ビジョンづくりに向けて！ 生産者と関係機関で県内の畜産基幹施設等を視察しました。
-----	--

(ダイジェスト)

飼育戸数の減少が大きな課題となっている西いわみ和牛改良組合では、今年度から関係機関と協議を重ねながら畜産ビジョンづくりを始めています。
そこで、課題解決のため12月20日、生産者と関係機関担当で県内の畜産基幹施設等を視察したところ、参加者の関心は高く畜産ビジョンづくりに弾みがつきました。

1 経 過

西いわみ和牛改良組合では、今年度の総会(8月31日開催)において畜産振興ビジョン策定を活動計画に掲げ、関係機関と共に行動計画の具体化を進めています。

当地域では和牛飼育農家の減少による活力低下が心配されることから、他地域で成果を上げている「畜産総合センター」と「アパート牛舎」の事例を視察しました。

2 視察の状況

和牛改良組合役員等生産者6名及び関係機関(=市町・JAしまね・県)5名が参加しました。

(1) 県央地区畜産総合センター(大田市波根町)

土江所長から運営状況と牛の預かり制度の効果等について説明を受けた後、牛舎及び放牧場などの案内を受けました。

(2) アパート牛舎(飯石郡飯南町塩谷)外

飯南町産業振興課 森山課長から「人口減少を緩やかにするため危機感を持った定住支援策(=住居・就業支援、農業担い手確保のためのアパート牛舎等設置)」の説明を受けた後、アパート牛舎に移動。青年農業士の松原健吾氏から、24歳の時に非農家から就農し、現在35頭の和牛成雌を飼育するに至った経緯と場内説明を受けました。参加者から、「自分と同じ過程を経験しているなあ(50歳代参加者)」、「頑張ったねえ(50歳代女性)」との声がありました。

3 参加者の反応・意見など

今回の生産者6名の内半数が畜産総合センターやアパート牛舎の取り組みを「今回初めて知った」と回答しました。

(1) 畜産総合センターについて

事故や病気による短期療養や高齢者の労力軽減、また新規就農者等の牛舎のスペース不足など、小中規模生産者全般にメリットがあると認識されました。

(2) アパート牛舎について

就農志向者や規模拡大志向者にメリットがあることが認識されました。

4 当面の進め方等について

当地域では大型牧場が雇用就農の受け皿として期待される一方、牛の預かりを通じて小中規模の個人経営を多面的に支援する仕組みが不十分など、生産者だけで解決が難しい課題も認識されました。今回収集した情報を生産者等との話し合いを通して畜産振興ビジョンづくりに活かし、課題解決を図っていきます。



県央地区畜産総合センター



飯南町役場



飯南町アパート牛舎